

# 「居場所プロジェクト」について

## (1)令和5年度 of 取組概要

### ◆プロジェクト参加機関

▶ 参加者の拡充：子ども・教育・まちづくり 分野とも協働

#### 令和5年度からの変更点

●**まちづくり分野**として、参加機関にリードあしやが加入

●**子ども・教育分野**として、第1回目に学校支援課坪井氏、地域まなびの場支援事業の若林氏がゲストとして参加

- ①阪神南障害者就業・生活支援センター(商工・労働)
- ②障がい者基幹相談支援センター(障がい)
- ③メンタルサポートセンター(若者)
- ④芦屋市社協(福祉団体)
- ⑤自立相談支援事業(生活困窮)
- ⑥就労準備支援事業(生活困窮)
- ⑦第1層地域支え合い推進員(地域づくり)
- ⑧**リードあしや(まちづくり) ! NEW !**

事務局  
地域福祉課

### ◆会議開催

	日時
第1回 (済)	9月11日(水) 13:00~15:00
第2回	未定(10月~11月)
第3回	未定(1月~2月)

今年度3回実施予定

●生活困窮者支援にとどまらず、より幅広い分野・視点での「居場所」に関する情報共有・協議・実践を行うことで、さまざまな人の「社会参加」の支援を行う。

## (2)第1回目の開催報告

### ①【これまでの活動の振り返りを共有】

どの分野でも「居場所」は課題であり、分野ごとの居場所も必要だが、既存の居場所を他分野と共有することや多世代型に広げることも可能であり、有効である。



### ◆ 拡充した子ども・教育・まちづくり分野における居場所について話を伺う

#### ②【市民活動としてつながる居場所づくり(リードあしや)】

- ・市民の「やりたい」気持ちのサポートをしている。
- ・中間支援団体として、会場の提供、ボランティア等へのつなぎ、助成金の案内をしている。(自主運営に向けてサポート)
- ・広報あしや、SNS等を活用した居場所の周知をしている。
- ・社会的孤立のかたも参加できている場もあるが、必要なかに情報が行き届いていないという課題もある。



#### ③【学校現場(のびのび学級)としての居場所(学校支援課)】

- ・学校復帰だけでなく、社会的自立に必要な力の育成を目的としている。
- ・指導員が交代制で勤務しており、心理士は毎日在籍している。
- ・学校復帰を見据えて、敢えて“学校の雰囲気”を感じられるようにしているため、それ以外の居場所があってもいい。
- ・不登校＝問題があるわけではない。様々な居場所や受皿があって、子どもが選べるようになるといい。
- ・下校後の居場所の提案はできていないので課題がある。
- ・卒業生が来てくれて、話を聞く機会を設けている。



**今後** 【2回目以降の活動について検討】  
 =会議体のフレームづくり=

前回までの居場所プロジェクトで考えた3つの視点「居場所の周知・共有・創設」をベースに、新たに参画した子ども・教育・まちづくり分野とも協働しながら、「居場所」をキーワードに取組を検討する。

### (参考)居場所プロジェクト 構成員名簿

区分	所属	氏名
商工、労働機関関係者	阪神南障害者就業・生活支援センター 主任就業支援担当	藤川 喜正
障がい者相談支援関係者	芦屋市障がい者基幹相談支援センター センター長	三芳 学
若者相談関係者	(福) 芦屋メンタルサポートセンター センター長	杉江 東彦
福祉団体関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会	針山 大輔
生活困窮者自立支援関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会 相談支援員兼就労支援員	黒田 樹里
	(福) 三田谷治療教育院 就労準備支援担当	佐藤 久愛
地域づくり支援関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会 第1層地域支え合い推進員	寺岡 康世
市民参画活動支援団体関係者	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	株本 就子

  

第1回目ゲスト		
区分	所属	氏名
生活困窮者自立支援関係者	(福) 山の子会 地域まなびの場支援事業 学習支援相談員	若林 伸和
学校教育関係者	学校支援課 課長	坪井 政人

  

事務局		
	所属	氏名
こども福祉部福祉室 地域福祉課	主幹(地域共生推進担当)	吉川 里香
	地域福祉係長	亀岡 菜奈
	地域福祉係	島田 友美